

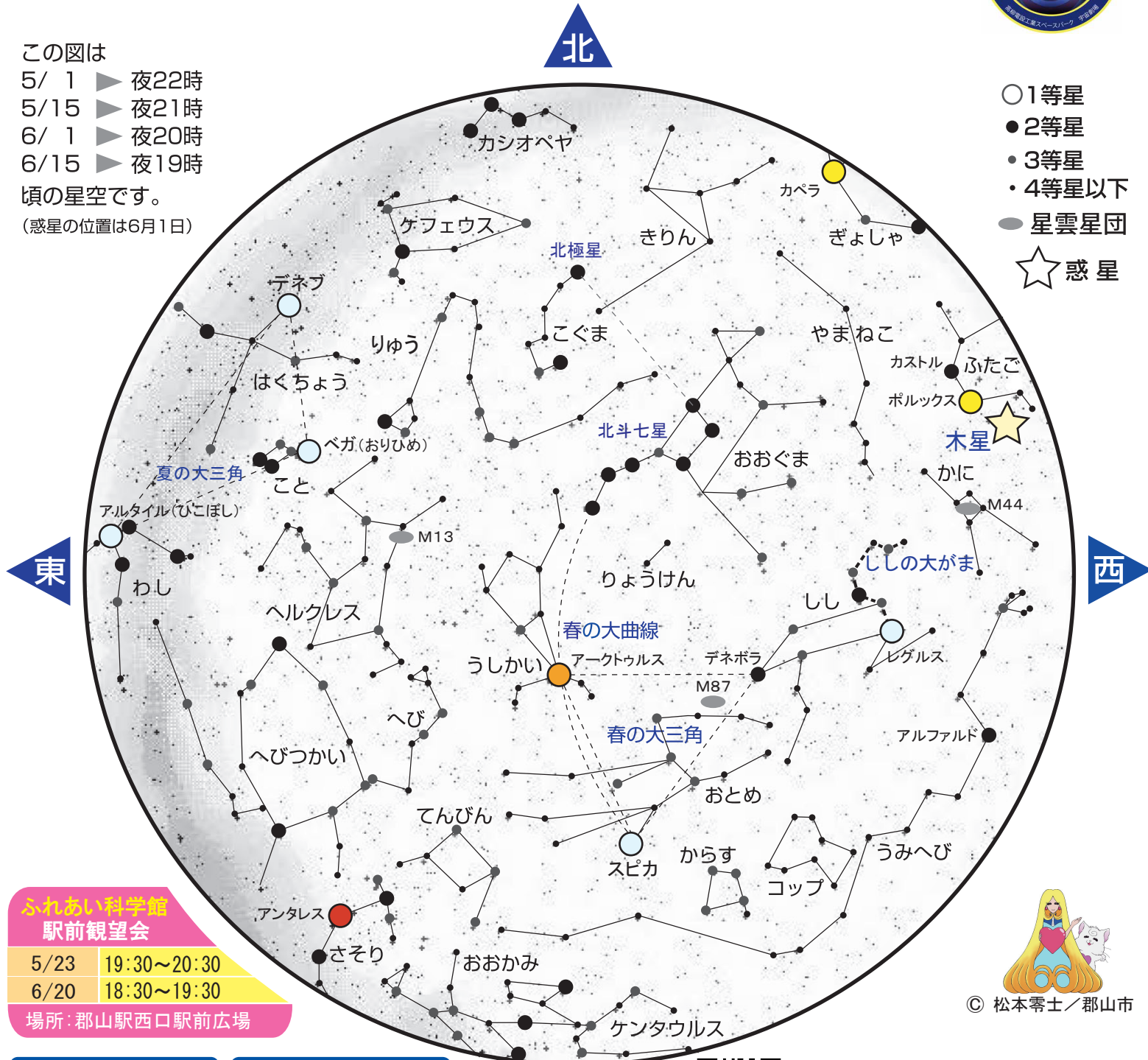
2026年

# 5月 ▶ 6月の星空



この図は  
 5/ 1 ▶ 夜22時  
 5/15 ▶ 夜21時  
 6/ 1 ▶ 夜20時  
 6/15 ▶ 夜19時  
 頃の星空です。  
 (惑星の位置は6月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ☆ 惑星



ふれあい科学館  
駅前観望会

5/23 19:30~20:30

6/20 18:30~19:30

場所: 郡山駅西口駅前広場



© 松本零士 / 郡山市

郡山の日の出・日の入		
5/ 1	4:41	18:31
5/15	4:27	18:43
6/ 1	4:16	18:57
6/15	4:14	19:04

月の満ち欠け		
新月	5/17, 6/15	
上弦	5/23, 6/22	
満月	5/ 2, 5/31, 6/30	
下弦	5/10, 6/ 8	

※上弦、下弦は半月です。

南



星図ダウンロードは  
こちらから

5月・6月の主な天文現象

5/ 6	みずがめ座 $\eta$ 流星群が極大
5/16	水星が東方最大離角
6/21	夏至

春の星座が空高く昇る時季になりました。南の空には、うしかい座の「アークトゥルス」とおとめ座の「スピカ」が輝きます。この2つの1等星は「春の夫婦星」と呼ばれ、オレンジと白の輝きを持ち、色の対比が美しい星々です。では、そこから北寄りに夜空を見上げてみましょう。すると7つの星を結んでできるひしゃくの形「北斗七星」が見えてきます。北斗七星は星座ではなく、おおぐま座の背中からしっぽにかけての星の並びです。ひしゃくの柄の先からカーブを描いて夜空をなぞると先ほど見つけた夫婦星をたどることができ、この大きなカーブを「春の大曲線」といいます。今度は逆にひしゃくの先に輝く2つの星に注目し、その2つの星の間の長さを5つ分伸ばしてみましょう。すると、北を示す星「北極星」を見つけることができます。このように1等星や目立つ星の並びを見つけ、そこからさらに他の星を辿ってみてください。

6月21日の夏至に向けて星を楽しむ夜の時間は少しずつ短くなりますが、夜を迎える前の夕方の空も眺めてみてください。宵の明星「金星」が西の空で明るく輝いています。5月上旬から6月上旬にかけては、金星と少し見上げたところに輝く木星がだんだんと近づきます。そして6月9日前後は金星と木星が接近し、その後2つの星は離れていきます。少しずつ変化するお互いの見かけの距離にも注目してみてください。